

方言を使った調べる学習体験型教室

～かごしま弁マスター教室 かごしま弁しゃべり隊!～



鹿屋市立図書館（鹿児島県鹿屋市） <http://www.oosumilib.jp/>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	鹿屋市北田町11107
電話番号	0994-43-9380
人口（図書館が所在する市町村）	10万人
職員数（うち有資格者数）	12人（4人）
蔵書数	185,169冊
登録者数	14,238人
年間貸出冊数（H24）	348,692冊

目的・趣旨

図書館の資料を使って、郷土の言葉に関する知識を得る。また、図書館を舞台に、世代間の交流を図り、住民や地域のよさを発見する。

取組概要

- 日程 夏休み期間 全5回
- 対象 小学4,5,6年生
- 講師 鹿児島弁研究者「さるあんどまめ」の2人
- 内容
 - ①講師の話やわらべうた、かるた遊びを通して鹿児島弁について知り、調べるテーマを決める。
 - ②図書館の本で調べたり、地域の方々にインタビューをしたりして鹿児島弁について調べる。
 - ③図書館の本を鹿児島弁で読んだり、お話を作ったりする。
 - ④図書館のお話会で発表する。



かごしま弁しゃべり隊結成

特徴

- 図書館で調べる、フィールドワークで地域の方々に聞く、自分自身で体験するといった活動を関連させた図書館を核とする参加型事業である。

①オリエンテーション



わらべ歌で遊ぶ

鹿児島弁を使って歌ったり踊ったりして楽しむ。また、鹿児島弁かるたで遊ぶ。

②自分でテーマを決め調べる



図書館資料で調べる

朝市でのインタビュー

③発表する

（左）発表の様子

金子みすゞの詩を鹿児島弁に訳したり、紙芝居を作ったりするなどそれぞれの課題について発表する。



発表の様子

取組の成果と今後について

教室を終えて、すぐに子供たちが言ったのは、「おやっとさあ（お疲れ様）だった。参加した子供たちは、教室終了後も鹿児島弁で運動会のアナウンスをしたり、祖父母宛での年賀状を書いたりし、生活の中で方言を活用したようである。また、郷土の方言を調べることで方言への理解が深まっただけでなく、地域の人々とのつながりも深まったようである。

今後も小学生のサークル活動として定着を図りたい。